

いつもJA津安芸をご利用頂きありがとうございます。  
JA津安芸管内の農業情報や農業を営む担い手の皆様に  
少しでも役に立つ情報をお届けさせていただきます。

## スギナの生態と上手な防除方法



### 3つの繁殖器官で増えるスギナ

スギナは、シダ植物に属するトクサ科の多年草です。

まず早春、地上に孢子茎と栄養茎が表れます。この孢子茎がつくしです。つくしに遅れて杉の葉のような形をした栄養茎が発生します。

シダ植物は種をつくらず、孢子で増えるのが特徴で**スギナは**孢子、根茎、塊茎の**3つの繁殖器官**で増えます。なかでも**増殖力が強大**なのは、地下にある根茎や塊茎、**すなわち地下茎**です。

### スギナは酸性土壌を好む は誤解？

スギナは酸性土壌を好み発生が多いと良く言われますが・・・実は誤解です。

最も良く育つのは、中性土壌です。アルカリ土壌でも酸性土壌でもよく成長します。

スギナは、他の植物に比べて酸性の不良な土壌であっても生育ができるため、結果として他の植物が生えずにスギナが目立ってしまうことになります。

### 地上茎の光合成で地下茎が伸びる

スギナはどのように繁殖していくのでしょうか？

地上茎の光合成で栄養分を作り、地下へ送ります。そして地下茎で栄養分を貯め込みます。

栄養分を貯めた地下茎が成長しどんどん増えていくわけです。

そこで！

### スギナを叩くチャンス

地下茎に栄養分を貯めさせない、増やさないことがポイントになってきます。

スギナはつくしが発生して2カ月以降に養分を貯め始めるので

スギナの**草高が20cm～30cm**になった頃が除草することで**地下茎に養分を送らせない**。



非選択性茎葉処理除草剤も根まで枯らすタイプと枯らさないタイプを使い分け、繰り返しによってスギナ全体を弱らせます。

スギナの地上茎を一度枯らしても、スギナは地下茎から再生しやすいので、**年に2～3回程度**の散布が必要になります。